THE MUSEUM OF ART, KOCHI

KENBI LETTER

ケンビレター

no. 114
2022. summer

佐藤健寿展　奇界／世界

2022(令和4)年6月18日[土]— 9月11日[日]

会期中無休

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

Exhibition Information – 01

佐藤健寿展
奇界／世界

《スイ・ティエン公園／ベトナム》2009年　©KENJI SATO

《ネネツ／ロシア》2017年　©KENJI SATO

《いざなぎ流／日本》2016年　©KENJI SATO

写真家・佐藤健寿（1978ー）は、これまでに世界120カ国以上を旅し、各地の"奇妙なもの"を撮影してきました。ベストセラー写真集『奇界遺産』や、テレビ番組などでの活躍を通じてご存じの方も多いかもしれません。「奇界」とは、「奇妙」と「世界」を組み合わせた佐藤による造語です。カラフルな南国のプールに屹立する巨大な首像や、鮮血滴る獣の肉を口に運ぶ雪原の遊牧民など、その被写体は、見る人に鮮烈な驚きの感覚を呼び覚ますものばかりです。しかし、そうした写真を眺めるうちに思い知るのは、こうしたものたちが存在する、私たちの生きるこの世界そのものの奇妙さ、計り知れなさであり、"奇妙なもの"と"普通なもの"の境目の曖昧さです。ブログ黎明期であった2000年代前半、佐藤は、幼少期から興味があったという超常現象など"奇妙なもの"への飽くなき好奇心を原動力に、ネット技術を駆使して世界中の膨大な情報を収集し発信するという、精力的な活動を展開していました。しかし、あらゆることがネットで完結し、世界を知った気になってしまうことに徐々に疑問を抱き、「マウスを置いて、リュックを背負う」[*1]ことを選ぶに至ったといいます。以降、あらゆる土地に自らの足で赴き、自身で見聞きし感じたことを、写真や文章、メディア出演などを通じて発信しています。その姿を国立民族学博物館の山中由里子教授は、古代ギリシャのアレクサンドロスになぞらえ、現代の「驚異の媒介者」と評しています。[*2]撮影の際、常にニュートラルであること、分かった気にならないことを心掛けているという佐藤の写真には、被写体のありのままの姿が誇張なくストレートにとらえられています。そこには、見る人がその歴史や背景に思いを巡らせる余白があるとともに、被写体に対する静かな敬意が感じられます。この度開催する「佐藤健寿展 奇界／世界」では、約20年に渡る活動の中で撮影された約200点を、「奇界」と「世界」の2つのセクションにより一挙公開します。併せて展示室には、関連する民俗資料や、本展の為に高知で新たに撮影された作品なども並びます。多様な世界の有り様を凝縮した本展が、生き生きとした好奇心を取り戻し、パンデミックによって閉ざされた世界への扉を開く一助となることを願っています。文・朝倉芽生（当館学芸員）

*1:佐藤健寿「PROLOGUE」『X51.ORG THE ODYSSEY』講談社、2008年
*2:山中由里子「驚異の媒介者、佐藤健寿の「奇界」に魅せられて」
『佐藤健寿展 奇界／世界』（図録）、朝日新聞社、2022年

佐藤健寿 KENJI SATO

1978年生まれ、武蔵野美術大学卒業。世界中の奇妙なものを紹介するウェブサイト「X51.ORG」が絶大な人気を博し、写真集『奇界遺産』3部作は異例のベストセラーとなる。テレビ朝日「タモリ倶楽部」やTBS「クレイジージャーニー」、NHK「ちきゅうラジオ」などのメディア出演のほか、雑誌や広告の撮影、企業キャンペーンの監修など、活動の幅を広げている。2021年に最新写真集『世界』を刊行。

表紙写真:《Al-1'Ula, Saudi Arabia》2019年 © KENJI SATO

高知の"奇界"を激写!
佐藤健寿、"いざなぎ流"を撮る。

今年4月、撮影のため佐藤さんが来高されました。今回、被写体となったのは、以前から強い関心を寄せられていた高知の民間信仰"いざなぎ流"。信仰が伝わる奥物部を実際に訪れ、「太夫（たゆう）」と呼ばれるいざなぎ流の伝承者の方にご協力いただき、ポートレートや祭具類の撮影を行いました。地域の人々にとって身近な存在だった太夫さんも、現在では片手で数えるほどしかいないといいます。高知に伝わる稀有な文化の記録としても、貴重な撮影となりました。

祭具の使い方や役割を教えていただくなど、コミュニケーションを重ねながら撮影が行われました。

歴民館×美術館
「世界不思議ミュージアム」始動!

世界不思議手帖

県立歴史民俗資料館で開催された「驚異と怪異」展との連携により、両館の開館以来初めてとなる企画展のコラボが実現しました。絶賛配布中の「世界不思議手帖」は、両展のエッセンスを抽出して紹介する冊子で、対象企画に参加するともらえるスタンプの台帳にもなっています。また、6月19日（日）には「驚異と怪異」展の企画者であり、佐藤健寿展図録へもご寄稿いただいた国立民族学博物館 山中由里子教授と佐藤さんによる対談も開催。高知県立美術館YouTubeチャンネルにてアーカイブ配信しています。

対談のようすは
こちらをチェック

2022年6月18日［土］—9月11日［日］
9:00－17:00（入場は16:30まで） **会期中無休**
会場＝高知県立美術館 第2・3展示室

観覧料＝一般当日1,200円（960円）、大学生850円（680円）、高校生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳 及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1名）、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催＝高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）、朝日新聞社、KUTVテレビ高知
後援＝高知県教育委員会、高知市教育委員会、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送
協力＝国立民族学博物館、高知県立歴史民俗資料館、香美市教育委員会、ダイヤミック／ピクトリコプリント工房、フレームマン

高知サマープロジェクト2022

しりあがり寿さんが高知県美にやってくる!

2022年7月26日［火］—8月21日［日］　入場無料

夏休みの特別企画「高知サマープロジェクト」。3度目となる今回は、漫画家のしりあがり寿さんをお招きして、ワークショップと展覧会を開催します。江戸時代後期の浮世絵師・葛飾北斎の作品《冨嶽三十六景》のパロディ※などで、近年活動の幅を広げているしりあがり寿さん。高知とのご縁のはじまりは2021年、北斎版画のパロディシリーズ《冨嶽三十六景孔球（こうきゅう）版》を高知の印刷会社で土佐和紙に刷ったことでした。見た人は思わず笑わずにはいられないアイディアとユーモアが詰まったその作品は、150年以上前の浮世絵をぐっと身近に感じさせてくれます。今回のプロジェクトは、そんなしりあがり寿ワールドを体感できる内容です。前述の《冨嶽三十六景孔球版》、その他北斎パロディの代表シリーズである《ちょっと可笑しなほぼ冨嶽三十六景》を高知で初めてお披露目!また、「絵金の年中風俗絵巻　アニメ化大作戦」と題したワークショップでは、高知ゆかりの絵師・絵金の絵巻を、参加者と一緒にパロディアニメーションとして制作し、公開します。夏休みはぜひ、美術館に遊びにきてください。文・中谷有里（当館主任学芸員）

※他者の作品を模倣し、ユーモアなど意図を加えて作り替えられた作品

イラスト：しりあがり寿

アニメーションの制作イメージ（原画:絵金《土佐年中風俗絵巻》高知県立美術館寄託）©しりあがり寿

<しりあがり寿さんコメント>
もしかして100年以上昔、江戸の街で出会っていたかもしれない北斎と絵金の2022年の土佐での出会い。二人の巨匠の絵で遊ばせてもらうことで、その世界を身近に感じてもらえれば幸いです。

高知ライブエール・プロジェクト

2022(令和4)年7月―2023(令和5)年1月

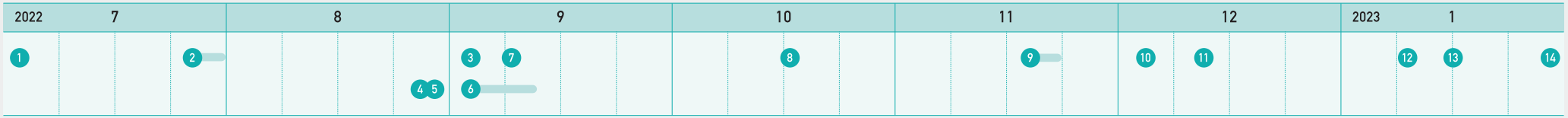
文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)
「JAPAN LIVE YELL project」

今年3年目を迎える文化庁のアートキャラバン事業にて、令和2年度と同様、日本芸能実演家団体協議会と共にジャパン・ライブエール・プロジェクトに参画し14事業を実施します。今年度は特に高知県全体の芸術基盤の強化を図るため、当館と高知県内の市町村、市町村教育委員会、市町村立文化施設、市町村を拠点とする芸術団体などが連携した共同主催事業を中心に、県内9市町村で多彩な事業を展開します。 ※状況により内容に変更が伴う場合がございます。最新情報は当館HPをご確認ください。

主催＝高知県立美術館(公益財団法人高知県文化財団)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

JAPAN LIVE YELL project

文化庁



KOCHI ADATAN(あだたん) film Festival

一日通し券1,000円(各会場ともに当日販売のみ)

テレビなどで放映されるポピュラーな映画ではなく、アート性の高い映画や、新進気鋭の作家の映画、サブカルチャー的な映画などを高知県内の広い地域で上映し、映像表現の多様性を味わう「高知あだたん」映画祭を開催します。今年は、高知市、須崎市、大月町の3カ所で地域ごとに特色のある映画を上映します。

1 高知市

オルタナティブ・マスターピース
7月2日(土)・3日(日)
高知県立美術館ホール

「チェルシー・ガールズ」
監督:アンディ・ウォーホル

「Shari」
監督:吉開菜央

2 須崎市

映像と身体
7月23日(土)・24日(日) 須崎市立市民文化会館 大会議室
7月23日(土)―31日(日) すさき まちかどギャラリー／旧三浦邸
※映像展示／25日(月)休館 ※すさきまちかどギャラリー入館料300円(7/23-24のチケット半券持参で入館無料)

3 大月町

アニメーション
9月3日(土)・4日(日)
大月町農村環境改善センター、COSA大月町

「DREAMLAND」監督:水江未来

サクソフォーン四重奏団　クワチュール・ベー 結成15周年記念コンサート

各回一般2,000円／学生1,000円(当日＋500円)／未就学児無料

当館が出前クラシック教室を始めるきっかけとなった「クワチュール・ベー」が、結成15周年を記念して11年ぶりに美術館ホールへ戻ってきます!温かな人柄溢れる演奏をお楽しみください。

4 高知市
8月27日(土) 開演14:00
高知県立美術館ホール

5 佐川町
8月28日(日) 開演14:00
佐川町立「桜座」

クワチュール・ベー

6 いのアートミーティング

9月3日(土)―11日(日) いの町紙の博物館

A.展示のみ／一般800円・小中学生500円
B.セット券(パフォーマンス＋展示／体験アート＋展示)／
一般1500円・小中学生1000円
※全ての料金に入館料も含みます。未就学児無料。

展示
9/3-11 ケイ・アラプナ、原啓太、ネス・ロケ&ラルフ・ルムブレス

体験アート
9/3-7 ランダール&サイトル「シンフォニー うつろいゆく美術館」
※各回5名限定・要予約

パフォーマンス
9/10-11 五十嵐結也・飯野高拓、北川結
※要予約

アーティストによる
トークイベントも開催予定

北川結 ©飯野高拓

7 ダンスの系譜学

9月8日(木)開演19:00　高知県立美術館ホール
一般3,000円／大学生以下2,000円(当日＋500円)

「ダンスの系譜学」とは、ダンスの歴史を振付の「継承」と「再構築」から紐解き、新しい表現の地平を切り開くプロジェクト。世界随一の振付家のウイリアム・フォーサイス、イリ・キリアン、劇作家の岡田利規が、日本のコンテンポラリーダンスを牽引する安藤洋子、中村恩恵、酒井はな、と発表した作品など全6作品を上演します。

瀕死の白鳥 その死の真相
©Naoshi HATORI

8 蛸蔵ラボ vol.9

10月15日(土)・16日(日)　ミニシアター蛸蔵
一般2,000円／大学生以下1,000円(当日＋500円)

9 無声映画×ライヴ演奏 & 秋の定期上映会

「合田佐和子が描いた銀幕の女神たち」(仮)

高知県立美術館ホール

◎11月17日(木)・18日(金) ※無声映画＋ライヴ演奏付
プログラム券3,000円(当日＋500円)
★ライヴ演奏付上映会出演者

坂田明

大友良英
photo:Soshi Setani
(YATSUI FESTIVAL! 2018)

勝井祐二

山本達久
photo:Taikou Kuniyoshi

武田理沙

◎11月19日(土)・20日(日)
※映画上映のみ
プログラム券
1,000円(当日＋200円)

ブロンド・ヴィナス ©ブロードウェイ

10 「絵金」(仮)

12月4日(日)　高知県立美術館ホール
一般8,000円／大学生以下5,000円(当日＋500円)

土佐独特の芝居絵屏風を大成した絵金こと絵師・金蔵。残酷な場面を鮮やかな色彩で描き「血みどろ絵師」とも呼ばれました。謎に満ちた絵金の半生と絵金の描いた凄まじい芝居絵が絡み合う世界を、気鋭のクリエーターが音楽とダンスでエンターテインメント絵巻を描きます。

アンサンブル・パレット 出前クラシック教室 & カラフルコンサート

各回一般1,000円／学生500円／小学生以下無料

地域の演奏家で結成されたアンサンブル・パレットによる出前クラシック教室の継続10年&100回を記念して、3つの地域と連携したコンサートと出前教室を開催します。

11 本山町
12月11日(日) 開演14:00 本山町プラチナセンター

12 田野町
2023年1月9日(月・祝) 開演14:00
田野町ふれあいセンター

13 四万十町
2023年1月14日(土) 開演14:00
窪川四万十会館

アンサンブル・パレット

14 四万十川国際音楽祭 「藤原真理と仲間たち クラリネット三重奏の世界」

2023年1月28日(土)　四万十市立文化センター
前売2,000円(当日＋500円)／高校生以下500円

倉戸テル
©Masafumi Tamura

藤原真理
©Atsuya Iwashita

遠藤文江

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

〒781-8123 高知市高須353-2 Tel.088-866-8000 Fax.088-866-8008 https://moak.jp/
発行:高知県立美術館　発行日:2022(令和4)年7月10日　デザイン:FULL DESIGN

［編集後記］ 本号より編集担当が変わりました。担当は代わっても"高知県立美術館(ケンビ)から、読者の皆さんに親しんでもらうお便り(レター)"という編集方針は変わらずに、愛される紙面づくりを目指します。
(編集担当:茂木恵美子)